

吉野川河口たんけん

とくしま自然観察の会

徳島市南昭和町

井口 利枝子

Riekojp 2000年4月29日発行



Vol. 1 住吉 今・昔

いつもは吉野川河口干潟でシオマネキやトビハゼと遊んでいるメンバーが、集まって カニたちが まだ潜っている3月12日、ちょっと肌寒い街入 タウンウォッチングに出かけた。手には、大正15年の徳島市の地図。



「このへんは古いかんじだね。」 「庄作 垣のせいかな?」

現在の住吉4丁目から6丁目にかけて吉野川堤防と平行して走る細い道は、まわりの開発された宅地とは、ひと味違う 集落の趣さがある。ここにお住まいのおじいちゃんにお話をうかがう。

● 地名について

「このあたりは 昔は大岡浦といったが」その後 住吉東町中洲となり。さらに 住吉北町4丁目、道路の拡張等がある住吉6丁目と変わってきた。」

大正15年の地図でも 大岡浦と写っていますね。「吉野川が 別宮川と呼ばれた頃、川幅は 今よりずっと狭く堤防は、今の川の中側にあった。 おじいさんの代までは、私の家も その堤防の近くにあり、今の川の 中洲あたりになる。」

岸へは 舟で 行き来したのですか? 「いや、畑が あるぞ。」 ああそうか。中洲と聞いて なんだが川の中の島に住んでおられたのかと思いましたが、 旧堤防からこちらは、陸つぎだったのですね。

● 吉野川の堤防工事と村の移転について

「旧堤防は、石垣で 波止(ハト)と呼ばれる波よけがついていた。今より ずっと高さがある 土手の上は 細かった。この旧堤は、今でも 舟で 川面から見ることができ。ただし 潮が引いて 天気の良い日。」

わあー。見てみたいですね。

「川幅を広げるために 南側に堤防を作ることになり。うちは、川底に沈んでしまうため、今の場所に、他の村の人と共に移って来た。うかがこのあたりで一番、東のはずれで、河口を見れば 沖洲海岸の松原が見えた。」



堤防の工事は馬で土を運んだ。トロッコも使った。私がはたち前くらいの頃だから終戦後すぐくらいには、道路の敷設や学校建設などで、 「昔、このお家は……」 「おんおん」 沼や 湿地が どんどん埋められた。囚人も、 勤労して手作業でやっていた。城東小学校は 湿地、徳商(徳島商業高校)は川を埋めためてこしらえた。」

● 生業について

「うちは、半農半漁だった。今は米は作っていないが、ここが水田の東はずれになる。ここより東は 塩水で米ができない。ここも水は、

吉野本町から引いて来ている。それでも 秋落ちちと言って 塩害で 稲が大おれることがある。

夏場は、水田で米を作り、冬場のみ 川に出て漁をした。「さしみ」と呼ばれる漁法で 夕方 網をかけて、朝 集めに行く。潮が止まっている時は 網でとり、潮が動いている時は、「カケ」と呼ばれる釣りをした。これは 舟に乗って呂をこぎながら 特殊なしかけの竿で 魚を ひっかけ取る。魚が寄ってくる場所は だいたい決まっていた。ボウ、イダ、ナカネなどの 魚をとった。



お話をしてくれた 今津 貞太郎さん

春先には、コシロが かがる。シジミもたくさんとれた。だいたい 10軒くらいが 漁をしていた。海には 行かない。川の漁だけ。

海の漁は 沖洲の人 5~6軒が 地引き網でやっていた。網の目が 周囲から 内側へ行くほど小さくなっていく 仕組みになっていて、それを 2隻の船が 沖から引いてくる。すると魚は だんだん真中に 追い込まれて 細かい目から 逃げられなくなり、 浜に あげられる。これが 巻き網漁に変わって 海岸で 漁が できなくなってから のりを 作るようになった。」

● 子どもの頃の遊びについて

「川ではよく遊んだ。夏は毎日 泳いでいた。シオマネキが たくさんいた。ハサミの 大きいのを つかまえてケンカさせた。シオマネキを釣るには、クゴと呼ばれる節のない長い草が 強くいて、トビハゼは 食べたもした。」

ほくたちも カニ釣りしよるよ。(男の子たち)

あちこち動いたお地蔵さんの話

現在、住吉6丁目吉野川堤防に通じる道路脇に祀られているお地蔵さんには、この地に 落ち着くまで あちこち動いた お話がある。



旧堤防の水門のあたりは、水深が 深く ここから身投げをする人がよくあつた。流れがゆるやかなので、潮の干満があるのでこのあたりは 水が行きつ戻りつして 身投げ人の死体は、海へ流れず、中洲や堤防にあがつた。自殺者の供養と身投げ防止の意味でいつか頃か水門脇に お地蔵さんを祀った。

堤防が新しくなつた時、蛭子神社の裏に移転したが 近くに住む人が縁起が悪いと 夜中にお地蔵さんをリヤカーに 積んで畑地のはずれに移した。誰かが 寝かいて戻す。今度は何れ川上にあつた水門のほとりへ動かす。こんなことが 何回もあつた。お地蔵さんは鼻が欠け、耳が落ちてしまつた。それでも堤防下でお祀りしていたが、10年前最大級の道路が 大工になり、再び移動させなければならなくなった。道路に分割されて 1坪半、三角形に残つた土地を、地元の有志で買って、新しくお地蔵さんも こしらえて 祀っている。近所の人加花や水、そびなどの世話をしている。

交通量の多い道路を背に 静かに座すお地蔵さんにこんな歴史が あつたとはい。

*これは (株)リバーフロント整備センター・平成11年度「川に学ぶ」活動の成果として印刷しました。